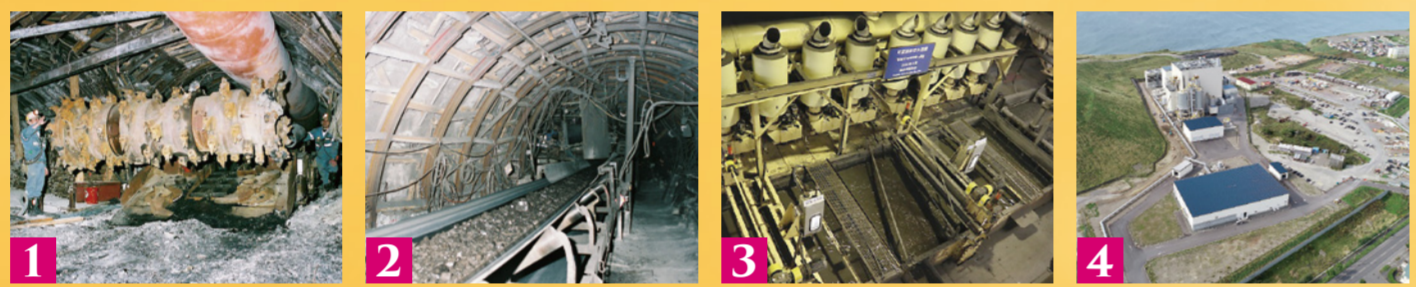




# 釧路には まだまだ石炭が ある。



1 釧路沖の海底下にコンティニアスマイナーとシャトルカーによる「ルーム探炭方式」で採掘  
2 原炭は地下ベルトコンベアで選炭工場へ  
3 選炭工場では比重を使って石炭(精炭)とズリ(石)に分けられます  
4 石炭は火力発電所や工場に運ばれて使われます

## 釧路へのアクセス

- 札幌から釧路へ JRで約4時間
- 道東自動車道の利用で車で約4時間7分
- 新千歳空港・丘珠空港から飛行機で約45分
- 羽田空港から飛行機で約1時間45分
- 関西国際空港から約2時間(季節運航 Peach)
- 伊丹空港から約2時間(季節運航 ANA)
- 中部国際空港から約1時間55分(季節運航 JAL)

## 釧路市

● 人口 / 157,519人 (2023年12月末) ● 面積 / 1,363.26km<sup>2</sup>

道東の中心都市として、石炭・水産・製紙の三大基幹産業により発展してきた釧路市は、たんちよう釧路空港・釧路駅を玄関とするひがし北海道の観光拠点でもあります。整備充実が進む釧路港には大型客船も多く入港しています。またサンマやサケ、シシャモに代表される新鮮な魚介類に加え、そばや釧路ラーメン、釧路ザンギなど、グルメの宝庫です。

**海産力 大吟醸**  
TEL.0154-41-3100  
■ 釧路市住吉2-13-23

**くしどーる Kushirock (クシロック)**  
TEL.0154-46-5373

**クマツ 釧路豆炭まんじゅう**  
TEL.0154-46-5373

**珈琲坂 炭焼ラーメン**  
TEL.0154-91-6905

**松屋 しろの街からこんにちは**  
TEL.0154-66-3947

**ハルミエ 炭焼物語**  
TEL.0154-91-3666

**くら重 黒いタイヤ**  
TEL.0154-42-4937

**自家焙煎コーヒー**  
TEL.0154-91-6905

## 釧路炭田グルメのご紹介

### 機械化と生産方針

戦後、日本の炭鉱は本格的な機械化が進められ、労働の近代化が図られるようになります。特に太平洋炭鉱は導入した機械化炭鉱として知られており1960年代後半には、後の世界基準採炭方式となるSD(スリット+トラムカッター)採炭方式を開発し、その後の大量生産を可能としました。現在ではこの大量生産型から地産地消型のルーム探炭方式(コンテナアスマイナー+シャトルカー)の組み合わせを、その後の炭鉱の発展として多くの炭鉱が採用しています。これら機械化の進展と「保安第一・生産第二」の生産方針が、釧路の炭鉱を唯一とした理由と見えてくるといえます。

### 大手資本による炭鉱経営に

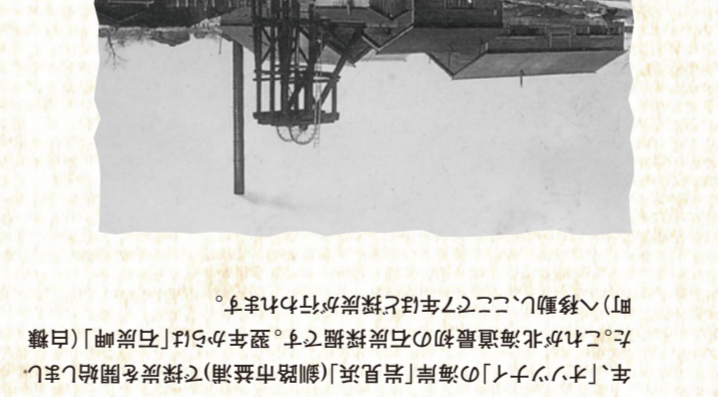
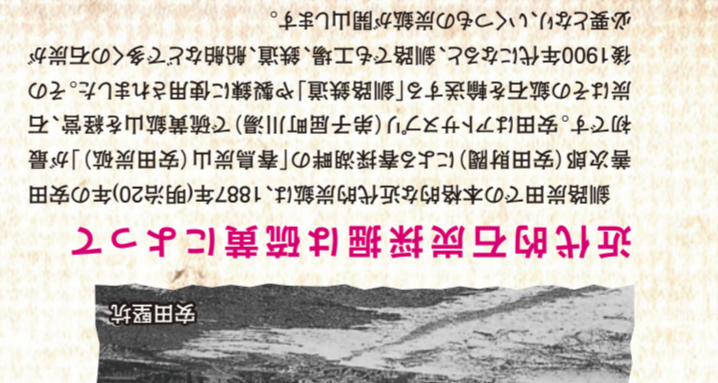
安田炭鉱は1914(大正3)年に林山しますが、買収され1917(大正6)年に「本村組組炭鉱」になり、さらに1920(大正9)年には「三井炭鉱炭田」を合併、「太平洋炭鉱」が誕生します。前年には「釧路炭田」の前身となる「北海道炭田」が設立されるなど、釧路炭田でも大正時代には大手資本による炭鉱経営が確立されます。また、1930年代後半からは坑内に機械が導入されるようになります。

### 北海道の石炭探掘のはじまり

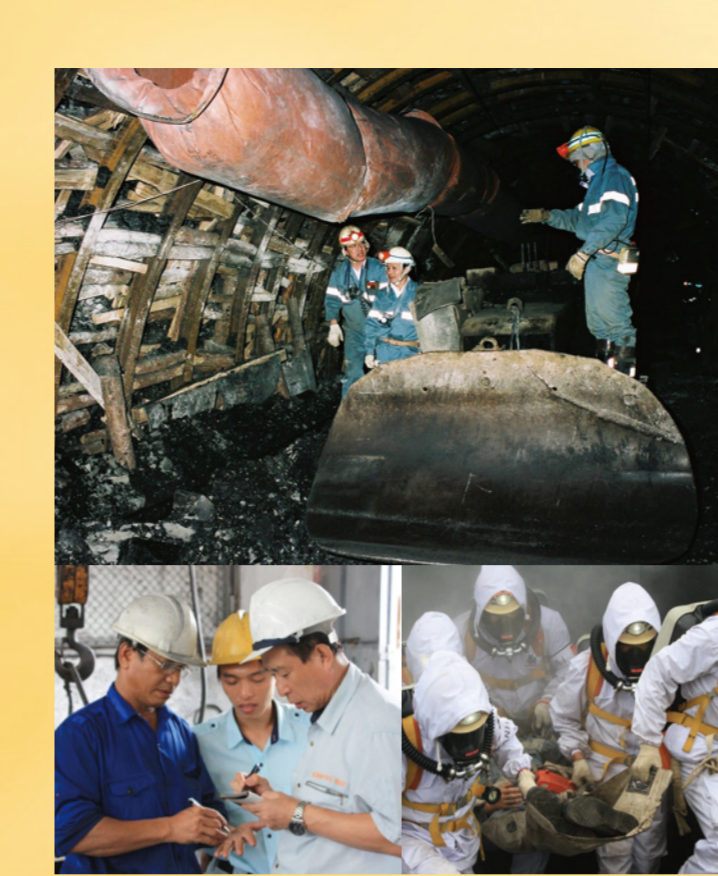
釧路炭田の開発は幕末、開国によって始まります。箱館(函館)に寄港する船に、薪や水、食料とともに供給するためです。1856(安政3)年、「オウツナイ」の海岸「岩見沢」(釧路市益浦)で採炭を開始しました。これが北海道最初の石炭採掘です。翌年からは「石炭岬」(白糠町)へ移動し、ここで7年ほど採炭が行われます。

### 近代の石炭探掘は硫黄によって

釧路炭田の本格的な近代炭鉱は、1887年(明治20)年の安田善次郎(安田財閥)による豊探湖畔の「豊島炭山(安田炭鉱)」が最初です。安田はアスマイナー(弟子屈町川湯)・磯崎炭山を経営、石炭はその鉱石を輸送する「釧路炭道」や製鉄に使用されました。その後はその鉱石を輸送する「釧路炭道」や製鉄に使用されました。その後はその鉱石を輸送する「釧路炭道」や製鉄に使用されました。



## 炭鉱の歴史紹介



### 研修事業

釧路コールマイン株式会社は、国の事業により、長年の実績と経験により培われ、そして現在も「生きた現場」だからこそ磨かれ続ける優れた生産・保安・管理技術をベトナム、中国、インドネシア、コロンビアに伝えています。2002(平成14)年から現在までに4,000名以上の研修生を受け入れ、各国における災害率が大幅に減少するとともに、生産能力の向上にも大きく貢献しています。

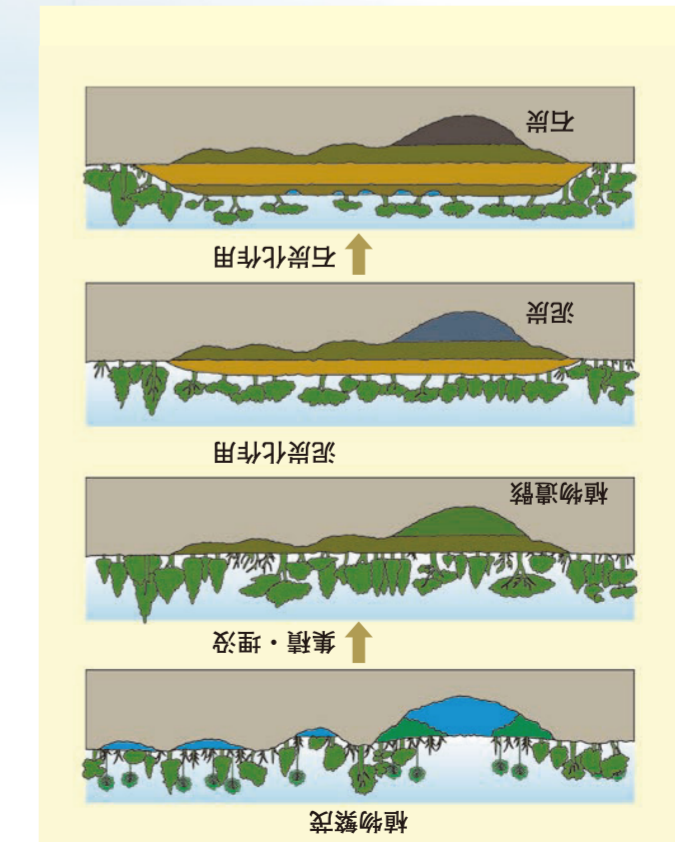
釧路コールマイン株式会社で行っている研修事業は、国内唯一の坑内掘り採炭技術として、「生きた現場」に裏打ちされた炭鉱技術を活かし、海外産炭国の安全性と生産性向上に寄与しています。また、この事業は、我が国への海外炭の安定的な供給確保と資源外交上の協力関係の構築、幅広い意味での国際貢献に繋がっています。



### 市民交流事業

釧路市では、釧路コールマイン株式会社の研修事業で訪れる研修生が、研修期間を快適に過ごせるよう、地域住民と交流し、日本文化の理解促進を図ることを目的とする市民交流プログラムを実施しています。

釧路市では、国内炭と研修事業を国のエネルギー政策に位置付け、石炭産業を振興することについて国に要望しています。



## 釧路石炭ガイド

国内で唯一炭鉱のあるまち

自主保安 自己捜検 イイカヨシ

日本の電力の約1/3は石炭による火力発電でまかなわれています。

古くて新しいエネルギー、石炭

石炭は、大昔の植物からできていて、これはよく知られているように、主に湿地帯に繁茂していた植物が、枯れた後に空気から遮断された状態で堆積し、そして地下へ埋没し、とても長い時間をかけて地球の圧力と熱を受け形成されたものと考えられています(これを「石炭化」といいます)。

ヨーロッパ、アメリカ、中国などの石炭は古生代石炭紀(約3億年前・三葉虫の時代)や中生代白亜紀(約1億年前・恐竜やアノモニアの時代)に堆積したもので、日本では古第三紀以降、6,500万年前より新しい時代のものが中心です。釧路炭田も同様で4,000万年前頃に形成されました。

## 石炭とは何か?